

(1) 上位目標	HIV 陽性者への抗レトロウイルス療法 (Antiretroviral Therapy: ART) 支援体制の強化を通じて、服薬を適切に継続できる ART 患者が増加するとともに、HIV/エイズに関する予防啓発活動を実施することで、事業地におけるエイズの脅威が軽減される。
(2) 事業内容	(ア) ART センターの建設と整備 前期に建設し、郡保健局に譲渡済みのマウントマクル・クリニック (以下、マウントマクル) 及びナンゴングウェ・クリニック (以下、ナンゴングウェ) の ART センターについては、両クリニックともに看護師長の管理下で適切に管理されていることを確認できている。ナンゴングウェの ART センターにおいては情報処理能力強化のため、データ登録室にコピー機を 1 台、また薬剤室に処方箋照会用として PC1 台を供与した。 今期より支援を開始したムウェンベシ・クリニック (以下、ムウェンベシ) において、ART センターの建設を進めている。4 月 29 日に建設会社と契約締結後、5 月 2 日に着工した。工事は予定通り進行しており、6 月末の時点で基礎及び上部構造工事が完了し、現在屋根組み及び左官工事を行っている。竣工は 8 月 24 日を予定している。現ムウェンベシの ART 室では患者カルテが床の上に積まれるなどカルテ管理体制が不十分であることが確認された。このため竣工に先行し、患者カルテ整理用の棚 2 架を供与した。 (イ) ART 患者情報管理システムの改善と確立 マウントマクルでは、前期において患者情報管理ソフトウェア (スマートケア) を導入し、システムの定着を図っている。現在は未登録患者の電子登録を進めている。また、患者の来院状況を把握するため、「ダイアリー・システム」を導入した。スケジュール帳を利用し、予約受付時に患者の ID 番号を該当日欄に記入し、実際の来院があれば当該患者 ID に印を付けていくことで、予約日に来院しなかった患者を容易に把握できるようになった。 ナンゴングウェにおいてはカルテに誤記入が多く、家庭訪問に支障が出ていた。このため、新規患者登録時に患者の電話番号をその場で発信して確認するなど、正確な患者情報を取得できるよう努めている。また、家庭訪問時に取得した患者情報を正確に記録できるよう、ナンゴングウェの服薬支援ボランティアを対象に、家庭訪問記録票の記入方法に関するワークショップを実施した。 今期より支援を開始したムウェンベシにおいては、長期間情報が更新されていない 607 名分のカルテを服薬支援ボランティアが選別し、患者名、ID 番号、住所、連絡先等の一覧表を作成した。この一覧表をもとに、家庭訪問が実施されている。 (ウ) 服薬支援ボランティアの育成と自立支援 マウントマクルにおいては、前期で 6 名のボランティアを選定したが、活動強化のため、今期新たに 4 名を追加採用し、計 10 名で服薬支援を行っている。 ナンゴングウェにおいては、病気や家族の看護などの理由から活動継続が困難となった 3 名を除く 12 名が服薬支援活動を行ってい

	る。 マウントマクル、ナンゴングウェ両クリニックのボランティアは、家庭訪問活動以外にも、ART 診療日には ART センターに出勤し、カルテ出納・整理、来院患者の体重・体温・血圧測定などの補助業務に従事しており、ART 患者への円滑な治療実施に貢献している。 ムウェンベシにおいては、看護師長の推薦、エッセイ審査、面接を通じて 25 名の服薬支援ボランティアを採用し、①年間活動計画策定、②服薬支援と家庭訪問活動準備、③自転車維持管理のワークショップを実施した。自転車維持管理ワークショップ実施後、家庭訪問活動用として自転車 25 台を同クリニックに供与した。上記②のワークショップでは当初 HIV/エイズ基礎知識の習得も予定していたが、採用したボランティアは HIV 陽性者支援活動に従事した経験があり、HIV/エイズについての知見を既に有していることから、服薬支援と家庭訪問活動準備に重きを置いた内容とした。 (エ) ART 患者及びその親近者に対する啓発活動実施 3 ヶ所のクリニックに通院する ART 患者及びその親近者に対し、HIV/エイズの基礎知識及び服薬支援に関するワークショップを、6 月末までにマウントマクルで 1 回、ナンゴングウェで 2 回、ムウェンベシで 1 回の計 4 回実施した。 なお、第 1 期に実施した同ワークショップの構成及び内容につき見直しを行った結果、講義中心の情報提供に偏りがちであり、参加者の集中力が続かないことや、内容が高度であることが反省点として挙げられた。そこでゲームやロール・プレイ、また DVD 等の視聴覚教材を取り入れる、重要なポイントをまとめるなどして、参加者が始終集中して学べるよう改善を行った。また、改善内容はワークショップ計画書に反映させ、当会のどの職員でも一定の品質でワークショップが実施できるようにした。 (オ) 学校エイズ対策クラブに対する予防啓発活動実施 当会による学校調査及び郡教育委員会との協議を経て、ムウェンベシ地域においてムウェンベシ中高等学校、ウェストウッド小学校、ムバンバ小学校、マーノ小学校の 4 校を活動支援対象校として選定し、その後、各校が年間活動計画を策定した。同時に、4 校のエイズ対策クラブ指導者計 6 名及びそのクラブメンバーのべ 86 名を対象に HIV/エイズ基礎知識ワークショップを実施した。また、各校の顧問教師及び学校運営者に対し指導者研修を実施し、教師、学校運営者計 20 名及び地域関係者 7 名が参加した。地域での予防啓発活動は地域の有力者の理解を得ることで円滑な実施が可能になること、また、今後の情報の波及効果も考慮し、本研修には地域の首長や助産婦なども参加者として含め、予防啓発活動への理解を深めてもらった。
(3) 達成された効果	(イ) マウントマクル、ナンゴングウェ両クリニックにおいては、長期間来院しない患者と現在の患者の予約状況を、台帳を用いて把握するシステムが定着した。ムウェンベシにおいては 180 日以上 の長期間にわたり来院が途絶えている患者の一覧表が作成され、これをもとに家庭訪問が実施されている。台帳を用いた情報管理と並行

	して、スマートケアによる患者情報の電子化を目指し、データ入力作業を進めている。5月末の時点でマウントマクルでは350名（同院で治療を受けている患者の61%）、ナンゴングウェでは3,669名（同院で治療を受けている患者の89%）の登録が完了している。 （ウ）マウントマクル、ナンゴングウェではそれぞれ10名、12名の計22名のボランティアが活動を行っている。今期から支援を開始したムウェンベシでは25名のボランティアを採用した。 家庭訪問については、マウントマクルでは1月から5月末時点で16名（予約日に来院しない、もしくは長期間来院しない患者の22%、ただし、患者の連絡先の有無は考慮せず）ナンゴングウェでは2月半ばから5月末の時点で141名（予約日に来院しない、もしくは長期間来院しない患者の39%）、ムウェンベシでは1月から5月末時点で402名（予約日に来院しない、もしくは長期間来院しない患者の66%）の患者を訪問したことを確認した。 （エ）ART患者及びその親近者を対象にしたHIV/エイズ基礎知識と服薬支援に関するワークショップを、6月末までにマウントマクルで1回、ナンゴングウェで2回、ムウェンベシで1回の計4回開催し、ART患者85名、親近者55名の計140名が参加した。ワークショップ実施後の確認テストの結果では、参加者の8割が正答率60パーセント以上であり、知識の定着が確認できた。 （オ）4校のエイズ対策クラブメンバーのべ86名を対象にHIV/エイズ基礎知識ワークショップを開催し、ワークショップ終了後の知識確認テストで参加者の8割が正答率80パーセント以上に達した。
（４）今後の見通し	（ア）ムウェンベシ・クリニックのARTセンターは8月24日竣工を予定している。その後すみやかに開業できるよう、現在、屋内設置用資機材の発注を進めている。また、竣工後には新設したARTセンターの満足度調査を予定している。 なお、【指標】②「患者来院記録により、予約患者の（第1、2期共通）80%、（第3期）90%が来院したことが確認される」につき、改めて精査を行った。その結果、施設の建設、整備が予約患者の来院促進に寄与するとは考えられても、そのみで予約患者の来院率の改善につながるとは必ずしもいえないことから、本報告以降から本指標を削除することとした。 （イ）引き続きスマートケアによる患者情報の電子化を進める。同時に、より正確な患者情報の取得に向け、家庭訪問後に記入する記録票の記載方法についてのワークショップを、マウントマクル及びムウェンベシのボランティアに対しても実施する。 （ウ）ボランティアのより強固な組織化と、本事業終了後の活動の持続性担保を目的として、組織運営力強化と資金調達力習得についてのワークショップを実施する。 （エ）約460名以上のART患者及びその親近者に対し16回以上のワークショップを実施する。 （オ）クラス巡回啓発活動準備のためのエイズ対策クラブメンバー向けワークショップを予定している。また、各校の同クラブが作成

	した年間活動計画を精査した上で適宜助言を与えながら、各クラブが主体となって予防啓発活動を実施できるよう支援する。
--	--